

習内容として扱うか、これまでの領域についても再検討されなければならない。

(2) 指導内容の精選ということ

このことについては、已に研究問題にとりあげられ、それぞれ論議されてきたが、量と質の問題もあろうし、必須教材と選択教材にわけて、内容に弾力性をもたせることも考えられよう。

なお、これまでのスポーツ文化の継承という立場をどの様に考えるか、更に徒手体操や格技についても、現況においては問題がある。要は体育の目標から、その内容全般について検討すると同時に、内容の観点にも研究の余地があるといえよう。

(3) 集団行動について

集団行動の扱いについては、現学習指導要領においても、積極、消極両論があって、結果的にはこれを学習内容とせず、単に指導上の留意事項として扱ったが、今回の改訂にあたっては、現在の生活状況から考えても、当然この位置づけや内容について明確にする必要がある。

保健の分野について

保健の分野についても、体育との関連において

再検討を要することはいうまでもないが、

特に中学校における保健学習に何を期待するか、本質的に考えてみる必要はないだろうか。

次にこれまでの保健学習からみて、問題点となることをあげてみよう。

1. 保健学習の学年指定は現行のままでよいのか。
2. 学習内容の精選について
3. 学習内容の程度は、中学生生徒の現況からみて適当か。
4. 他教科との関連について再検討の必要はないか。
5. 性教育についての指導は、現行の扱いでよいのか。
6. 実験、実習については現行のような扱いでよいのか。
7. 環境衛生や精神衛生についての指導内容を再検討する必要はないか。

以上、学習指導要領の改訂にあたって、検討を要する問題点について述べたが、前述のように、このことはわれわれ現場における研究課題であり、各方面の研究活動を結集して、現場の声が反映され、改訂へのよき資料となる事を望みたい。

中学校保健体育の年間計画作成の研究

東京都杉並区立東原中学校教諭 黒 木 晃

新年度がはじまり学習指導計画をたてる時期が来た。学習指導計画は、あくまでその学校のものであり、その学校の教師が作成するものである。しかし、現状は、教科書会社の指導書に従って学習指導が行なわれる向きがある。とくに教科書を唯一のよりどころとする教科にその傾向が強い。教科書の指導書の計画、それ自体がその学校の指導計画におきかえられている場合がある。

また、地方の教育委員会あるいは研究会において学習指導計画あるいは計画作成の資料が作られている。それを絶対的なものとして受けとめそれ自体が学校の計画となっていることも考えられる。

いずれにしてもそれらの計画は参考になる面が多い。とりいれるところは大いに役立てその学校自体に則した独自性のある計画をたて実行に移したいものである。

学習指導計画がより实际的に生かされるためには、生徒の実態、すなわち生徒それ自体と生徒をとりまくすべての条件に則したものであることがのぞましい。

さて、学習指導計画には、年間計画、単元計画、単位時間の計画などがあげられる。この中でもっとも中枢となりよりどころとなる計画は年間計画である。

年間計画は、年間の限られた時間数の中で学習指導に無駄がなく、能率的に効果的に行なわれるためのものである。

年間計画が具体的な指導の場で生かされるため

には、実施した結果の反省の上に立っていくつかの予想される条件を考慮にいれて立案することになる。

ここでは、昭和41年度のわが校の年間計画作成の手順を追って幾つかの条件をあげることにする。

I 計画作成の見通し

どの学校においても保健体育担当教師は2名以上いると考える。また、男女別の学習指導がなされているが、運動場、体育館、プールなどの共通の施設、ハードル、バトンなどの共通の教材を使用する場合が多い。

年間計画は、指導の共通理解に立つことのほか施設用具の調整をはかることも重要な位置づけとなる。

計画作成にあたっては、大小の人数を問わず、教科部会をもって計画作成の連絡調整をはかることが必要である。

計画作成の見通しをあげてみる。

1. 第1回の部会の内容

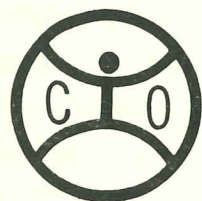
(1) 基本的態度について話し合い、方針をきめる。

①本年度の年間計画の実施の結果を反省する。

次のような評価の観点をきめる。

- ・学校の教育目標を生かすのに適切であったか
- ・学校の実態に適合していたか
- ・学習目標の方針は適切であったか

体育器具遊戯具
体育館内部施設



K.K 小川辰春館

福山市引野町

TEL ② 0209
③ 3099